

令和8年度 東京都立中野工科高等学校（全日制課程）学校経営計画

東京都立中野工科高等学校長

## 教育目標

教育基本法にのっとり、民主的な社会の有為な国民の育成を期し、次の目標達成に努める。

- 1、人権尊重の精神と自主独立の精神を高める。
- 2、責任感と創造力の育成を図る。
- 3、地域社会・国際社会の理解及びそれに貢献できる能力を確立する。

## 1 目指す学校

### スクールミッション

「人権尊重の精神と自主独立の精神を高め、責任感と創造力の育成を図る」教育目標のもと、地域社会・国際社会の理解及びそれに貢献する能力を確立し、生徒の自立と社会参加を目指し、専門的技術と知識を身に付けるとともに、生徒一人一人の潜在的な能力を伸長させます。

### スクールポリシー

- (1) グラデュエーション・ポリシー
  - ① 高校生活・社会的自立の基盤となる判断力・行動力を養う。
  - ② 社会生活・就業に必要となる基礎学力の向上を図り、工業分野の知識・技術力を習得する。
  - ③ 自立した生活に必要な自律力・規範意識の向上を図る。
  - ④ 適切なコミュニケーションに必要な理解力・表現力を育成する。
  - ⑤ 互いに尊重しあい協同していける力を育成する。
- (2) カリキュラム・ポリシー
  - ① 30分授業や習熟度別授業を活用した、学びなおしによる基礎学力の定着を図る。
  - ② 工業の専門性の充実を図り、資格取得や就職に耐えうる能力を養う。
  - ③ キャリアガイダンスの充実を図り、コミュニケーション能力や社会性を養う。
  - ④ 体験的な活動、作業を伴う活動、書かせる活動、考えさせる活動、話し合わせる活動、発表する活動を授業に取り入れることにより、教育活動を充実させる。
  - ⑤ 通級指導を実施し、発達障害の生徒に対して自立活動の支援をする。
- (3) アドミッション・ポリシー
  - ① 食品サイエンスに関する工業技術に興味があり、社会人として自立していくために意欲的に授業へ取り組んでいける。
  - ② 自分の在り方生き方を見つめ、就職、進学、資格取得等に向けて、目標をもってコースを選択できる。
  - ③ すすんで挨拶するなど、よりよい人間関係を築き、他人を思いやることができる。
  - ④ 学校や社会の規則・マナーを守り、責任のある行動がとれる。

- ⑤ 学校行事、部活動、生徒会活動、学級活動に積極的に参加し、まわりと協調性がとれる。
- ⑥ 自ら決めた目標に対し、最後まであきらめずに努力を惜しまずチャレンジできる。

## 目指す学校

### (1) 入学し、卒業して良かったと心から思える学校

工業科エンカレッジスクールとしての教育活動の特色を活かし、様々な学習活動から、生徒一人ひとりの潜在的能力を伸ばすとともに、生徒を力づけ、自信を付けさせ、希望の進路への実現ができるように育成する。

### (2) 落ち着いた学べる環境をつくり、能力に応じたきめ細かい学習活動を行い、学力を伸ばさせる学校

生徒達が安心して学べる環境づくりを行うとともに、生徒の能力に応じた授業内容や方法によるきめ細かな指導を行い、全ての生徒に高校以前の学習内容を含め、社会的・職業的自立に必要な基礎的な学力を確実に身に付ける。

### (3) 一人ひとりの人権を尊重し、社会的規範と思いやりの心を育てる学校

生徒の個性の伸長を図るとともに、自他の基本的人権を尊重する精神を培い、互いに尊重しあい、適切にコミュニケーションがとれる力を身に付け、安全指導、問題行動防止、生命の尊さ、いじめ防止に向けた指導を徹底し、社会人としての必要な礼儀やマナー、規律や態度を身に付ける。

### (4) 主体的、意欲的に進路選択ができる能力とともに、社会性を育成する学校

キャリアガイダンスを通じて、3年間を見通した計画的なキャリア教育を行い、進路実現に向け、自ら意欲的に取り組める力や、コミュニケーション能力、社会的自立に必要な力を確実に身に付ける。

### (5) 保護者や地域住民と連携して生徒を育てる地域に開かれた学校

保護者と連携し、基本的な生活習慣の定着を図り、健康的な生活習慣を身に付けさせる。また、地域に信頼され、開かれた学校を目指す「地域に根ざした中野工科高校づくり」を進め、社会貢献の意義を考えさせ、道徳教育の充実を図る。

## 2 中期的目標とその達成に向けた方策

### (1) 学校経営「学校経営計画を実現する学校運営体制の工夫、改善を行う。」

- ①教職員が相互に信頼し、協力し合える職場環境の構築を推進する。
- ②校務分掌の取組目標と課題を学校全体で共有し、全教職員が共通理解の基、課題解決に向けて取り組むとともに、進行管理と状況把握を行いながら、組織的に対応する。
- ③企画調整会議の充実と経営参画型の経営企画室の体制づくりの充実を図る。
- ④自律経営推進予算の編成と計画的・効率的に執行を行うとともに、施設の管理と環境整備を行い、教育活動の充実を図る。
- ⑤カリキュラムマネジメントを行い、生徒の実態にあった食品サイエンス科の教育課程編成と、効果的な教科指導法の改善を図る。
- ⑥実習棟の新校舎の完成を目指し、施設・設備に関する計画的な検討と移転計画、備品管理を行う。
- ⑦学校運営連絡協議会による提言や授業公開等の意見を積極的に取り入れ、学校経営の改

善を図る。

⑧校内研修等を通して、特別な支援を必要とする生徒の対応や授業改善、サービス事故防止等教職員の対応力の強化を図る。

⑨計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図る。

(2) **学習指導** 「学校の教育活動全体を通して、ルーブリックにより教科横断的に育成すべき資質・能力への評価基準を示し、朝学習、30分授業、習熟度別授業、少人数授業により、きめ細かなわかる授業を展開し、生徒の学習状況を見極める。また、生徒の学習を促し、学習習慣を定着させ、確実に基礎学力の定着・向上を図る。」

①習熟度別授業、少人数授業を活用し、基礎学力の定着と向上を図る。

②確認テストや基礎力診断テスト等を活用し、生徒の学力を把握し、生徒の実態にあった学習計画の策定と、定時制課程と連携した教員相互の授業参観を活用した授業改善に向けた校内研修等を実施する。

③工科高校資格取得アシスト制度を活用した資格取得や検定試験合格、コンテストの参加など生徒に具体的な目標を示すことで、成果を実感できる指導の工夫を行う。

④生徒が自ら課題を発見し解決する「探究的な学び」に対し、個に応じたきめ細やかな指導の充実を図る。

⑤エンカレッジスクールとしての到達度目標に向けた学習評価方法の改善を行う。

⑥ICT機器等を活用した授業の充実と一人1台端末を利用した授業により、学習に対する生徒の興味・関心を高める。

⑦特別な支援を必要とする生徒の対応として、個別の支援計画を策定し対応する。

⑧校内寺子屋による学習支援を行い、特に苦手な教科の学力の向上を図る。

(3) **生活指導** 「よき社会人となるために必要な基本的な生活習慣、規範意識、公共心を育成する。」

①自立支援事業継続派遣校として、全教職員が一体となって自立支援チームと連携し、SC・YSWとの連携を深めるなど、中途退学者や不登校生徒等へ組織的に対応する。

②特別活動・部活動等と学習活動の両立を図り、社会の一員としてよりよい生活を築こうとする態度を育成する。

③安全教育を重視し健康と安全保持の充実を図り、事故防止に努める。

④家庭と連携した望ましい生活習慣の確立、社会性や規範意識、公共心を育む規律指導の徹底を図る。

⑤部活動への加入を推奨し、部活動の活性化と体力の向上を図る。

(4) **進路指導** 「進路実現に向け、健全な職業観・勤労観を育み、社会人・職業人として必要な力を身に付ける。」

①キャリア教育の視点に立ち、高校3年間を見通したキャリアガイダンスの編成・実施・改善を進める。

②企業・上級学校との連携による体験の拡充と健全な職業観・勤労観の育成につながるインターンシップ等の体験的活動を一層充実させる。

③体験的活動や個別指導の充実による進路意識の高揚と進路希望の実現を図る。

(5) **健康づくり** 「心身共に健康な体づくりに向けて主体的な取り組みができる力を育成す

る。」

- ①生徒、教職員の健康管理を行うとともに、基本的な感染症対策を徹底して行う。
- ②心身共に健康な体づくりや体力向上に向けた、授業改善、体験活動、学校行事の工夫を行う。
- ③学校保健計画の組織的な実施を図る。
- ④全ての教員が、教育活動全体を通じて、生命を尊重する心の育成を推進する。
- ⑤適応指導や教育相談にかかわる校内研修および活動の更なる充実を行う。

(6) **地域交流** 「生徒の地域貢献・社会貢献活動をより活発化し、生徒に自信を付けさせるとともに、自己表現力やコミュニケーション能力を高める。」

- ①地域に根ざした「体験学習」や環境教育（地域美化活動）を実施するとともに、地域に開かれた学校づくりを行う。
- ②公開講座、出前授業の改善、充実を図る。

(7) **防災教育** 「防災教育を推進・強化」

- ①東京都及び中野区、消防署、地域と連携し、計画的な防災教育の充実に努める。

(8) **募集・広報活動** 「学校の広報活動を更に活性化させ、都民の本校に対する理解を高め、中学生・保護者に選ばれる魅力ある学校づくりに努める。」

- ①推薦、一次募集における入学者選抜方法の工夫を行う。
- ②広報・PR組織の強化、学校ホームページの随時更新、PR動画の制作、学校説明会、体験入学等の広報活動の改善、充実を図る。
- ③学校開放事業や公開講座、出前授業、体験教室の充実を図る。

### 3 今年度の取り組み目標とその達成に向けた具体的な方策

工業科エンカレッジスクールとしての着実な前進と「食品サイエンス科」において着実な育成を目指す。

#### (1) 教育活動の目標と方策

##### ①学校経営・組織体制

ア 工業科エンカレッジスクールとしての使命を果たせる組織づくりを推進する。

○学年と分掌の情報の共有化を図ると共に、円滑で効率的な学校経営を推進する。

○学校経営計画の実現に向け、庶務・経理・学事等の各部門において、教育活動を充実させるための事務運営を工夫、実践し、適正かつ効果的な予算管理と計画的な執行に努め、教育環境の向上に努める。

○環境の保守改善に努め、安全・安心な学校づくりに努める。

イ 教員の意識改革と資質・能力の向上を図る。

○授業改善・教材開発・オンライン授業、教育相談、体罰防止等のサービスに関する校内研修及び、OJTを計画的、組織的に実施し、教員の意識改革とエンカレッジスクールにおける教育活動に加え、食品サイエンス科として必要な資質・能力の向上を図る。

ウ 個人情報保護・管理と体罰防止の取り組みを徹底して行う。

○個人情報保護・管理と体罰防止に向け、校内研修を充実すると共に日常的な組織的取り組みを強化する。

エ 食品サイエンス科の教育課程の充実に向けた取組を行う。

○食品サイエンス科の専門性を向上できる授業の充実を図る。

○食品サイエンス科の教育課程のブラッシュアップを行う。

○食品サイエンス科の広報活動を充実させる。

オ 働き方改革プランを推進させ、仕事の効率を図り、ライフ・ワーク・バランスの実現を図る。

○計画的、組織的な仕事の進め方により業務の効率化の徹底を図り、教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図る。

○部活動指導を見直し、部活動指導員や外部指導員を活用するなど、教員の在校時間の縮減を図る。

○職員は勤務時間終了後1時間以内に退勤し、余暇の充実を図る。

## ②学習指導

ア 学習習慣を身に付けさせ、義務教育段階から基礎・基本を理解させ、進路実現ができる学力を育成する。

○30分授業やベーシックの時間（学び直しの時間）、習熟度別授業・少人数授業により、授業に集中させる。また、朝学習や基礎学力定着のために共通テストの実施、座学・実習におけるICT機器の活用により確実に学力を高める。キャリア・パスポートなどを利用したポートフォリオを構築させる。

○工科高校資格取得アシスト制度を活用した資格取得や検定試験合格への挑戦、各種競技会・展示会への参加、課題研究発表会でのプレゼンテーションなど、具体的な目標達成のための指導を継続して実施し、生徒のやる気を高める。

○教育活動を充実するためのしかけを行い、生徒が意欲的・主体的に学べるよう授業内容、指導方法、学習評価の在り方を工夫・改善する。特に、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を行うための校内研修を実施する。

○特に義務教育段階の学び直しが必要な生徒に対して、校内寺子屋による外部人材を活用し、基礎学力の定着を図る。

○生徒が自ら課題を発見し解決する「探究的な学び」に対し、「課題研究」、「探求」において外部人材を活用し指導の充実を図る。

## ③生活指導

ア 生徒理解に努める。

○毎日の生徒の様子を観察するとともに、教員間の生徒情報の共有に努め、スクールカウンセラー、ユースソーシャルワーカーとの一層の連携など、教育相談活動の充実を図る。

○教職員と保護者との連携により、生徒の不安や悩みの解消に向け、教育相談体制を充実させる。

イ 生徒に基本的な生活習慣や規範意識、自信を付けさせ、好ましい人間関係の確立を支援する。

○規範意識向上の取組として、中工スタンダードを活用し、校則を守り基本的な生活習慣や規範意識を身に付けさせる指導を全教員が一致して行う。

○様々な社会貢献により生徒に自信を付けさせるとともに、コミュニケーション能力

を高める指導を通して互いを尊重しあう態度を培い、いじめ・暴力を絶対に許さない環境づくりに取り組む。

○いじめ問題に関して、早期発見、早期対応に努めるとともに、適切に対応するため、個々の教員のいじめ問題への敏感な感覚と的確な指導力を高め、どんなに小さないじめと思われる事案に対しても、学校全体による組織的な取組により解決を図れる体制づくりを行う。

#### ④進路指導

ア 望ましい職業観・勤労観を醸成する。

○各学年の生徒の実情に応じた年間の進路指導計画を作成し、インターンシップや進路講話、職業的自立支援プログラムなど外部機関と連携し、キャリア教育の一層の充実を図り、生徒の進路意識を向上させる。

### (2) 重点目標と方策、数値目標

①エンカレッジスクールの特色ある教育活動と自立支援継続派遣校を通して生徒の学校生活を支援し、中途退学者数を減らす。

・中途退学者数 1年10人以下、2年5人以下、3年生0人

②キャリア教育の一層の充実を図り、自己の適性を見出させ、進路希望の実現を図る。

・生徒一人一資格取得率 平均3個

・就職一次内定率 85%

・就職最終決定者率 100%

・卒業時の進路未定者率 1%以下

③全教員が一体となった組織的な取組により、基本的生活習慣の定着と規範意識の徹底を図る。

・年間欠席日数が20日以上の方 15人以下

・特別指導件数 20件以下

④校内研修により教育相談の一層の充実を図る

・教育相談に関わる校内研修 5回以上

⑤学校PR活動の一層の充実を図り、より本校に合った生徒の入学を目指す。

・学校説明会の参加人数（保護者と中学生） 500人以上

⑥研究授業・研究協議を積極的に実施し、教員の授業力向上を図る。

・教員相互の授業観察を年3回以上実施する。